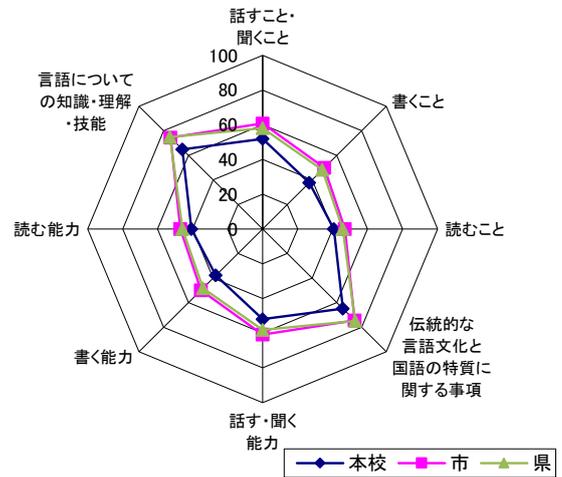


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	51.9	60.8	58.1
	書くこと	37.8	49.8	48.3
	読むこと	40.7	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.9	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	51.9	60.8	58.1
	書く能力	37.8	49.8	48.3
	読む能力	40.7	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	64.9	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○話し合いにおける共通点や相違点について整理して話すことについては他の設問よりやや正答率が高い。</p> <p>●司会者として話の内容を理解し、話し合いを進行することに対して課題が見られる。</p>	<p>・話し合いの単元を充実させるとともに、話し合いの中で役割を分担させ、問題提供者や司会などの役割を順番に全員が体験できるようにし、また話の流れにおいてもしっかりと理解しながら話し合いができるよう指導・支援していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●掲示物の内容に合った内容の資料を選ぶ問題において選択式の問題であったが、平均正答率67%と県の平均を9ポイント下回っている。</p> <p>●インタビューの結果をもとに収集した資料や条件を整理して書く力に課題が見られ、平均正答率21%と県の平均を20ポイント下回っている。</p>	<p>・掲示物の内容にあった資料を適切に選ぶ機会を社会や総合的な学習の時間などと連携して設けるなど他教科とも関連することを意識しながら学習を進めていきたい。</p> <p>・インタビューの結果をもとに掲示板の空欄に書く問題においては、掲示板の内容とインタビューの結果と書く条件の3つに合わせて文章を作ることが苦手であるため、友達の見解や資料のまとめなどの学習の際にまとめ方を一緒に学習しながら慣れさせる活動の時間を確保するようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○物語を読み、叙述を基にして特徴的な描写をとらえる問題の平均正答率は30%であるが、県の平均は5ポイント上回っている。</p> <p>●説明文では、要点を捉えたり、中心になる語や文を捉え、整理したりすることが課題が見られ、県の平均を10ポイント下回っている。</p>	<p>・説明文における要点を段落ごとに整理する活動を増やしたり、キーワードとなる言葉を中心になる文を見つけたりする活動を増やしながらい説明文に対する苦手意識を克服させていきたい。また、まとめる対象が複数あり、それぞれの特徴をまとめるような場面を多く取り扱うことで資料を読み取る力をつけさせていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○漢字の読みについては平均正答率95%の設問が2問あり、他の問題に比べ正答率が高い。</p> <p>●漢字の構成(部首やたれ)や慣用句の使い方については平均正答率50%と県の平均を20ポイント下回っている。</p>	<p>・新出漢字の学習において漢字辞典を使う場を多く設定し、部首やたれに多く触れさせながら習得を図ってきたい。また、慣用句については、慣用句に触れる機会が非常に少ないことから、プリント学習などで慣用句に触れる場を多く設定し、習得を図っていく。</p>